

終戦前後の長崎保育界から

— 復興の現在概要 —

荒 木 嘉 弘

倉橋三先生よりの御指名を受けましたので、不敏も顧みず書かせて戴きます。長崎市を中心に県下の保育状況の概要と、活潑な現在の復興までの経緯を述べます。

先ず、原子爆弾の被害から申し上げます。昭和二十年八月九日は晴天一点の曇もない暑い暑い日でした。午前十一時爆音の響に次いで二分、閃光一線、全長崎は崩壊せられ落下中心地より七、八百米以内は即座に発火大火災となり千米位の場所も相当の熱気を受けている(七千度)為に延焼早く見る見る焼野原と化して行きました。

負傷者の右往左往する者数え切れず死傷七万三千という多数の事とて頭顔手足は焼けただれ、目玉の飛出したような様子の人もあり衣類はずたずたに焼け切れ、或は爆風で吹き

飛ばされ裸体の者多く、血潮淋漓と流れ乱れて目を覆わしむるものがありました。

隣町村よりの救援隊に夕方炊出しを受ける始末。

悲しき哉、城山町は中心より五、六百米にあり、城山幼稚園主下川竜爾先生御夫妻は御孫様と共に倒壊園舎の下敷となり即死せられました。園舎も一物も残さず(コンクリートの門柱や、水道の鉄管の焼けたのが残つたきり)全焼しました。信愛幼、純心幼、浦上養育園は、城山と方向がや、異つているが中心地から千米以内の近距離のため全焼外、聖母幼、肥長幼、麗華幼、長崎幼共全焼に遭われました。大破したのが玉ぞの幼、稲佐幼、小破清心幼、桜丘幼、女専附属保育園でありました。官公衛大会社の全焼全壊は数え切れませんが、学校関係だけ列記しますと

長崎医大全焼を初め県立工業、同瓊浦中学市立商業、信愛、純心両高女、三菱工業坂本町別館、小学校では山里、鍊座、城山、稲佐朝日、西浦上、西坂全焼

市内各幼稚園共空襲が頻繁なので夏の幼稚園を一切せず、休園でしたため、園舎の損害は多かつたのですが、人の死傷数は少なくすみました。

八月十五日の日まで空襲が続きましたので家屋の修理などの事ではありません。米軍の上陸さえ伝えられ、市外へ避難する者物すこく多く、町はひっそり閑となりましたが、十日頃からはつぼつ帰宅する人が増して、どの家も先ず家修理に着手です。その頃豪雨の日多く、全市の屋根が小さく破壊されていて雨漏り激しくても修理用資材と雇入れるの手不足に皆な大そう困らせられました。

私共の玉子の幼は西方八〇米の所で（原爆火災の延焼が迫りましたが）喰とめ得ましたので焼失を免れたのですが、さあ修理に取掛らうとしても、天井は全部落下、壁は破れ、戸障子はどこへ飛んだか散つて、ガラス粉が一面砂をまいたように散らばつて足のふみ入れるすぎがなく、家財も壊れたり、倒れたり、主柱も傾斜していて、建具も残つたのは開閉が自由でなく、電燈瓦斯水道は破損で使用不能、疎開した解体家屋古材料の持合せで倒れか、りの家を起して住めるだけの応急処置を施しました。幸に停戦のため上陸待機中の船員多数が近所におつて相談した処、快く加勢して下さつたので助かりましたが、原爆で負傷はなかつたのですが、不良瓦斯を吸つた者は下痢患者となり、又は髪がぬけ落ちる者続出し、日を追つて、五日目から十日、一カ月

二カ月と死亡者が次々に運ばれ、十月私宅家族五名全部下痢にかかり、三週間程病床に苦しみました。全員床にいて困る時に、長男が復員して、一人で医師通い、炊事、看病をして助かりました。又、幸い全快して死は免れました。

やつと十二月一日、再開園の新聞広告を出しました。何分園具が一切そのまゝ、（多少の破損はあり）運動遊具が全部無事でした（昭

和十四年正月完成し、一度幼児教育に揚職させて戴きました鉄製の綜合大運動具は、鉄回りの命令が出て八月十一日に取除きに工作班が見える事になつていたものでしたが、原爆が二日早かつたので残置となり、一同喜んであります。市内のデパートの屋上にあるジャングルジム等は、二三日前に撤去され屑鉄として某地へ運び出されていますので保育は不自由を多少感じ乍らも出来ず。

四月始め百八十名、在籍者が七月には疎開その他で四十名程になつていたのが三十七名復帰し通園しました。

昭和二十一年四月には直に百名に迄復帰しました。

全焼の幼稚園は勿論開園の見込み立たずに二十年を終えました。

昭和二十一年四月から市立長崎幼稚園は市内今籠町の大音寺の一室を借用して保育を開始、市立桜丘幼は大修理ですみ、保育開始稚佐幼、清心幼、夫々修理して開始され全焼した信愛と純心は新築して二十二年四月開園され、二十三年秋から諏訪神社に諏訪幼（園長菅真幸）が創立され、戦時中被害で一時休園中の親愛幼は保育所として発足され廿五年増改築され、二十四年には休園中の鮎浦幼（園

長山口初子）が復活開園され、厚生省の奨励による市立保育所が市内五カ所に立ち、私立保育所五カ所が新設或は再起されました。二十五年には県立保育所が、県立女子短大附属に設立替えされ、寺町皓台寺に皓台寺幼が創立され、従来高女であった鶴鳴新制高等学校、又玉木新制高等学校共に附属として鶴鳴幼、玉木幼が二十七年四月開園され、カトリック教会で中央袋町にカトリックセンター幼を開園されました。更に目下三カ園認可申請中であります。

結局本年末までには何れも認可を確信するとして長崎市内には〔幼稚園〕

県立一 市立二 私立十四 計十七カ園
〔保育所〕

市立七 私立八 計十五カ園
となります。

長崎市保育会

昭和八年の創立で、会長には歴代市長を推戴、副会長に助役と早田隆次（長崎市立幼稚園長）幹部に下川龍爾、伊藤つる、向井まゆみ、松尾利信、高島スミ、笹森とし、の諸氏が主役で活動されたのですが、保育園側は、夏季の保育講習会に一部参加される程度で殆んど幼稚園のみの保育会に見えました。

昭和十八年戦時託児所併設の勧誘が県よりあり、併設したのは信愛幼と玉その幼だけで終戦後は信愛は保育所一本になり、玉そのは幼稚園一本となりました。

下川氏亡きあととは、早田、高島、伊藤、向井及び笹森各女史も第一線を退かれ右何れも御健在です。

各園より一名宛代表者を出し互選により世話人を定め(目下荒木「玉その幼」がその役)合議制でやっています。

昭和二十四年には、長崎県保育会も復活し、長崎学芸大学附属幼主事松島主事を会長に、佐世保比良幼、有浦俊一、長崎桜丘幼大場久子園長副会長、県下を五支部に分ち、長崎市保育会は結局長崎県保育会の支部となり支部長に荒木就任、廿五年は会長に松岡主事就任され、島原で総会と遊戯講習、昨年は平戸幼で総会及び講習会を、本年は雲仙で総会並びに講習(心理と遊戯)を開催、百参拾名の参加で盛会だった由(私は原爆の影響といわれています)徴恙中で残念乍ら欠席)町立平戸幼伊藤佳子園長、島原幼渡部義正園長等の御熱心で遂行されつゝあります。昨年は又フレール百年記念行事として講演会と、県下数カ所持ち寄り移動幼児画展を催しました。

佐世保市は戦災で相当廃止もあり、比良幼

は昨春から保育所に切り替えられ、進徳は終戦後保育所となり、東本願寺幼復活、聖心幼早崎幼新築再開、桜の聖母幼の外小学校に二カ所附設が本年から実行され、保育所は二十年以上の歴史あり、海光園始め新設五カ園あります。

大村市には純心幼、向陽高校附設幼一と、前述大学附属幼があり、諫早市は二カ園あったのが廃止され(諫早幼、誓願寺幼)新にカトリック教会で諫早純心幼の創設があり、島原市は島原幼、濠幼、聖和幼、相愛幼とあります。

離島対馬に町立二、壱岐一あり、五島町立福江の外富江幼があり、北松御厨幼は本年正月火災全舎焼けて、四月からは町立の保育所が建ち、幼稚園が廃止されました。

長崎県下保育所は公認されたもの六拾カ園に及びます外、炭鉱地など幼稚園名の幼児施設五六カ園あります。正式認可幼稚園ではありませんが、炭坑ブームで、経済的には良い御経営とお見受けしています。

佐世保市では、保育所のみ進徳保和田氏の提唱で佐世保保育会が出来ています。長崎平戸の公立幼稚園では日教組との連絡で活動されています。

別途長崎県内私立幼稚園では、私学法の制

定により日本私幼連も連絡をとり、十八カ園が私幼協会を樹立し、長崎県の私学審議会委員に玉その幼荒木を推薦、知事より任命があら就任しています。

戦災後未復旧の園は城山幼、麗華幼、聖母幼と肥長幼三カ園と、疎開のまゝの玉の江幼と四カ園であります。又市立長崎幼稚園は大音寺の一部を借用し不自由な中に山口菊代園長の熱心により既に元の袋町に新築せらるる様に市会でも予算を通過されたと承つて居るのです。近く内外共整つたモデル幼稚園の出現されるのも間近だろうと期待しています。以上拙文でお恥かしい事ですが概要を申し述べました。

(学校法人玉その幼稚園長)